

(別添 4)

【海士町教育委員会】

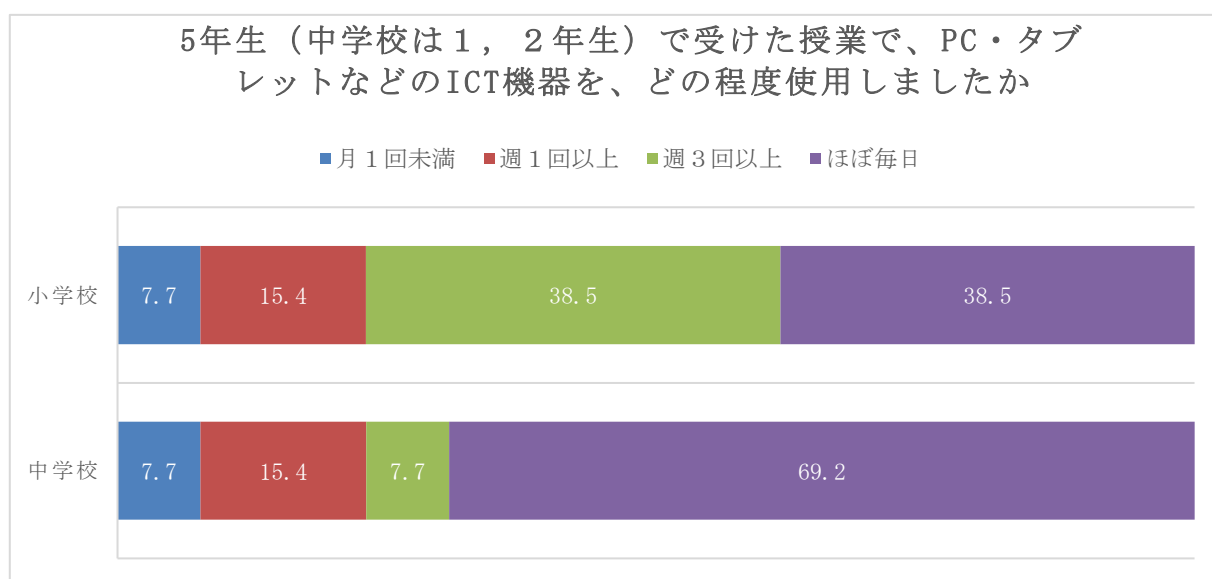
1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

- ・児童生徒が1人1台端末をはじめとするICT環境を自らの学びを自由な発想で構築していく学びの姿。
- ・学びにおける時間、距離などの制約を可能な限り取り払う。授業で学習した内容について、端末を自宅に持ち帰ることで家庭学習にまで広げたり、遠く離れた市町村の子どもたち同士で学習を深めあったりすることなど、ICTの利活用によってこれまでに難しかった学びにも挑戦する姿。
- ・ICTを活用した授業により、児童生徒の個別最適な学びや支援を可能にしていく。児童生徒が自分に合った学習方略を見つけ出し、課題に向かって個別最適な学びを展開していく中で、教師はその学びをICTを通して支え、伴走していく。

2. GIGA第1期の総括

- ・本町では令和3年度より一人一台端末を導入し、周辺の通信ネットワーク環境ふくめ整備をしてきた。しかしながら、端末の配備を行うことが優先されてきた背景もあり、端末を活用した学びの実践に関しては、必ずしも効果的な実践が行われてきたとは言えない状況であった。
- ・その後、町内の小中学校の継続的なICT活用教育の取組もあり、ICT機器を活用した授業実践は増加傾向にある。（下は令和5年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙の結果の一部）



- ・本町の各小中学校の現時点での1人1台端末の利用状況は県や全国と比べても高い水準にあると考えるが、教員が「教えるための道具」（教材の提示や記録ノートの代わりに使うなど）の範疇にとどまっている
- ・このような現状を受け、令和6年度からは、授業で「より効果的に」ICTを活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に結びつくよう、町内各小中学校のICT教育担当で構成される「ICT教育活用部会」が主体となり、放課後の短い時間を活用してオンラインでICTを活用した授業づくりについて学び合う「あまICT道場」を行うなど、現場のニーズに合った授業改善の仕組みを作ってきた。
- ・このような動きを次年度以降も町内各学校のICT教育担当と教委が連携しながら行っていくことで、めざす学びの姿の実現に向けて取り組んでいきたい。

3. 1人1台端末の利活用方策

○1人1台端末の積極的活用

授業等で児童生徒が、自分が「学ぶための道具」として積極的に活用できるようになるよう、教師の授業観のアップデートを促していく。児童生徒が1人1台端末を積極的に活用するためには、従来の一斉指導だけでなく、子どもに学びをゆだねる授業観への転換が必須であると考え。町内の学校で見られるICTを活用した授業の好事例を集め共有したり、指導主事の学校訪問などでその必要性を伝えていったりしながら進めていきたい。

○個別最適・協働的な学びの充実

ICT機器を活用した個別最適・協働的な学びを充実していくために、クラウド環境によるリアルタイムでの情報共有を子どもの学習方略の一つとして位置付けることが重要であると考え。授業で取り組んでいる課題に対して、個別で取り組んでいる状況を共有しいつでも他者参照できるようにしたり、つまりいた時には互いに助け合ったりしながら学習できる学びを作っていきたい。令和6年度から導入しているGoogleWorkSpeceForEducationのアプリも積極的に活用していくことで、このような学びを作ることが期待できる。

○学びの保障

ICTのもつ特性を最大限活用して、様々な理由により登校が難しい児童生徒や、障害等により特別な配慮や支援が必要な児童生徒に対するきめ細やかな対応を行い、「全ての子どもたちの可能性を引き出す」ことを目指す。

また、自然災害などで学校で授業を行うことが難しい状況となっても、子どもたちの学びを止めることがないよう、普段からICTで学校と子どもをつなぐ状況を作っておくことを目指す。